F19 ユーザーマニュアル

リリース v1.1.1

2026-09-02

目次

1 システム設定 **4**
1.1 既定パラメータを設定する . . . 4
1.2 製品情報を出力する . . . 5
1.3 パワーモード . . . 5
1.4 ブザー . . . 6
1.5 デコード成功の通知音 . . . 7
1.6 ミュート . . . 7
1.7 電源投入時のビープ音 . . . 8
1.8 設定コードパラメータ通知音 . . . 8
1.9 イベントレポート . . . 8
1.10 ハートビート制御 . . . 10
1.11 設定バーコードの読み取り . . . 10
1.12 設定コードを送信する . . . 11
1.13 コードパスワードモードを設定する . . . 11

2 デバイスの機能設定 **13**
2.1 インジケーター機能 . . . 13
2.2 デコード成功インジケーターライト . . . 13
2.3 デコードインジケーターライト制御 . . . 14
2.4 照明制御 . . . 14
2.5 ポジショニングライト . . . 15
2.6 URL ブロック . . . 16
2.7 請求書機能 . . . 16

3 トリガー設定 **17**
3.1 トリガーモード . . . 17
3.2 未読取メッセージを送信 . . . 26

4 インターフェース設定 **27**
4.1 通信方式 . . . 27
4.2 シリアルパラメータ . . . 30
4.3 ウィーガンド . . . 34
4.4 RS485 ネットワーク機能 . . . 36
4.5 Modbus RTU ネットワーク機能 . . . 38
4.6 USB タイプ . . . 40

5 キーボード設定 **41**
5.1 キーボード . . . 41

6 データ編集 **49**
6.1 デコードデータ形式 . . . 49
6.2 Code ID 文字を送信 . . . 49
6.3 終端文字の設定 . . . 50
6.4 プレフィックス/サフィックス . . . 51
6.5 バーコードタイプに応じてプレフィックスとサフィックスを設定する . . . 57
6.6 カスタムバーコードデータの非表示 . . . 59
6.7 カスタムバーコードデータの保持 . . . 62
6.8 バーコード内のカスタマイズされたデータ文字列を非表示にする . . . 67
6.9 カスタムデータを挿入する . . . 68

6.10 データ設定の置き換え手順 . . . 69
6.11 GS1 規則（AI フィールドを括弧で囲む） . . . 77
6.12 16 進数に変換する . . . 77
6.13 Code ID . . . 78
6.14 AIM コード識別子 . . . 79

7 キャラクター設定 82
7.1 出力文字セットの種類 . . . 82
7.2 入力文字セットの種類 . . . 83

8 バーコード設定 85
8.1 主なシンボル体系 . . . 85
8.2 1D 反転バーコード読み取り . . . 86
8.3 全バーコードタイプの有効/無効 . . . 86
8.4 リニアコードタイプの安全レベル . . . 87
8.5 UPC-A . . . 88
8.6 UPC-E . . . 90
8.7 EAN-8 . . . 93
8.8 EAN-13 . . . 95
8.9 Bookland EAN (ISBN) を有効/無効にする . . . 97
8.10 Code 128 . . . 97
8.11 GS1-128 (以前の UCC/EAN-128) . . . 99
8.12 ISBT 128 . . . 100
8.13 Code 39 . . . 101
8.14 Code 93 . . . 105
8.15 Code 11 . . . 106
8.16 Interleaved 2 of 5 ／ ITF . . . 108
8.17 Discrete 2 of 5 ／ Industrial 2 of 5 ／ IND25 . . . 110
8.18 Matrix 2 of 5（Matrix 25） . . . 112
8.19 Standard 2 of 5 ／ IATA 2 of 5（Standard 25） . . . 114
8.20 Codabar . . . 115
8.21 MSI/MSI PLESSEY . . . 118
8.22 GS1 DataBar/RSS . . . 121
8.23 PDF417 . . . 122
8.24 QR Code . . . 122
8.25 Data Matrix (DM) . . . 124
8.26 MaxiCode . . . 125
8.27 Aztec Code . . . 126
8.28 Han Xin Code . . . 126
8.29 ISSN . . . 127
8.30 NEC-25(COOP25) . . . 127
8.31 COMPOSITE . . . 129

9 付録 129
9.1 数字設定コード . . . 130
9.2 文字検索テーブル . . . 132

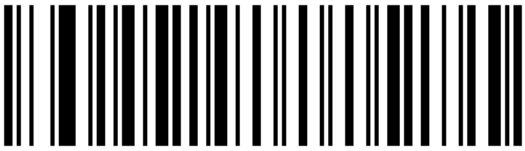
1 システム設定

1.1 既定パラメータを設定する

次の設定コードをスキャンして工場出荷時の既定設定に戻すか、既定構成 1 ～5 に切り替えます。

> **注釈**
>
> 読取モジュールの工場出荷時の既定設定は、実際の工場出荷時の構成情報によって決まります。

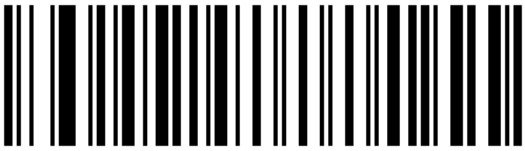
工場出荷時の既定設定



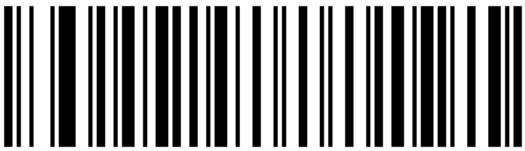
工場出荷時の既定設定

既定設定 1 ～5

構成	該当する命令
既定構成 1	主に POS パラメータ設定用。通信方式はシリアルポート、トリガ方式はキーホールド、終端文字は無効です。
既定構成 2	主にセルフサービスパラメータ設定用。通信方式は USB KBW、トリガー方式は自動検知、終了文字はキャリッジリターンとラインフィード (\r\n) です。
既定構成 3	主にバーコードリーダーのパラメータ設定用。通信方式は USB KBW、トリガー方式はキーホールド、終了文字はキャリッジリターン (\r) です。
既定構成 4	通信方式はシリアルポート 9600、トリガー方式はキーホールド、終了文字はキャリッジリターンとラインフィード (\r\n) です。QR コードは、既定では QR および DM シンボル体系のみを有効にします。
既定構成 5	まだ有効になっていません。



既定構成 1



既定構成 2

既定構成 3

既定構成 4

既定構成 5

1.2 製品情報を出力する

製品情報を出力する

1.3 パワーモード

このパラメータはエンジンの出力モードを決定します。

低電力モードでは、読取モジュールは 800ms アイドル状態になった後、自動的にスリープ状態に入ります (ウェイクアップコマンドによってウェイクアップできます)。連続電力モードでは、読取モジュールは、デコードを試行するたびに起動したままになります。

常時給電

低消費電力（低電源）

1.4 ブザー

ブザー音量

ブザーの音量を設定するには、以下の対応するバーコードをスキャンします。

低い

真ん中

* 高い

ミュート

ブザーの種類

* パッシブブザー

アクティブブザー

1.5 デコード成功の通知音

次のバーコードをスキャンして、読取モジュールが正常にデコードしたときの成功ビープ音を設定します。

* デコード成功の通知音

デコード成功時の通知音なし

1.6 ミュート

ミュートを有効にすると、すべての警告音がオフになります。ミュートを無効にすると、警告音が復元されます。

* 無効にする

有効にする

1.7 電源投入時のビープ音

無効にする

有効にする

1.8 設定コードパラメータ通知音

無効にする

* 有効にする

1.9 イベントレポート

このマニュアルでは SSI コマンドテーブルをインポートしません。イベントレポート関連の手順については、外部 SSI コマンド資料の EVENT の説明を参照する必要があります。

ブートイベント

電源投入イベントコマンド: 05 F6 00 00 01 FF 04

* 無効にする

有効にする

読み取りイベントのトリガー

読取モジュールが読み取りをトリガーすると、命令または GPIO ピンを通じてプロンプトを表示できます。GPIO ピンのプロンプトは、読み取りが完了するまで Low のままになります。

トリガー読み取りイベントコマンド: 05 F6 00 00 02 FF 03

* 無効にする

イベントが有効になっている

ピンイベントイネーブル

イベントと GPIO ピンのイネーブル

1.10 ハートビート制御

ハートビート制御は以下の動作方式をサポートしています。

パラメータ値	意味
00	ハートビート機能を無効にします。
01	ハートビートパケット 04 50 00 00 FF AC は 9 秒ごとに送信され、ACK は必要ありません。
02	ハートビートパケット 04 51 00 00 FF AB は 9 秒ごとに送信されます。ACK 04 D0 04 00 FF 28 が 3 秒以内に受信されない場合、デバイスは再起動します。

* 無効にする

ハートビートは ACK を必要としません

ハートビートには ACK が必要です

1.11 設定バーコードの読み取り

無効にすると、通常の設定コードはデコードされません。「既定パラメータの設定」は引き続きデコードできます。「スキャン設定バーコードを有効にする」、既定パラメータまたはシリアルコマンドを設定することで再度有効にすることができます。

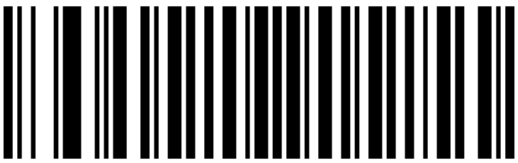
* 設定バーコードのスキャンを有効にする

スキャン設定バーコードを無効にする

1.12 設定コードを送信する

有効にすると、設定コードをスキャンするときに、デバイスは設定コードのコード値を同時に出力します。既定では無効になっています。

設定コードの送信を有効にする



* 設定コードの送信を無効にする

1.13 コードパスワードモードを設定する

設定コードパスワードモードは、セットアップ操作をロックおよび保護するために使用されます。有効にした後、構成のために一般的な設定コードをスキャンする前に、正しい設定コードのパスワードを入力してデバイスのロックを解除する必要があります。正しいパスワードを一度入力すると、この起動中はロック解除が有効になります。

> **注釈**
>
> パスワードは 00-99 の範囲の 2 桁です。

設定コードパスワードモードを有効にする

デバイスが無効な設定コードパスワードモードから有効な設定コードパスワードモードに切り替わるときは、最初にパスワード検証に合格する必要があります。この機能を無効にする場合は、パスワードの検証も必要です。

* 無効にする

有効にする

設定コードのパスワードを入力してください

次の設定コードをスキャンした後、2 桁の設定コードをスキャンしてパスワードを入力します。2 桁未満の場合は、前に 0 を追加します。

パスワードの範囲

00-99

設定コードのパスワードを入力してください

例

パスワードを入力してください 68: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 6 と 8 を順番にスキャンします。

間違った入力をキャンセルするには、バーコードをキャンセル をスキャンします。

設定コードのパスワードを変更する

パスワードは、設定コードパスワードモードが有効で、パスワードの検証に合格した (デバイスのロックが解除されている) 場合にのみ変更できます。

設定コードのパスワードを変更する

例

新しいパスワードを 96 に設定します。設定コードをスキャンした後、数字設定コード 9 と 6 を順番にスキャンします。

間違った入力をキャンセルするには、バーコードをキャンセル をスキャンします。

ログアウトパスワード

パスワードモードで正しいパスワードを入力した後、設定コードをスキャンして現在のロック解除状態からログアウトできます。以降の設定操作では、パスワードを再入力する必要があります。

パラメータ番号

0xF2 0xA9

ログアウトパスワード

2 デバイスの機能設定

2.1 インジケーター機能

表示灯が示す機能を設定します。

* デコード命令

電源インジケーター

2.2 デコード成功インジケーターライト

デコード成功表示灯は、デコード表示として使用する場合に限り、一定時間点灯します。

無効にする

* 有効にする

2.3 デコードインジケーターライト制御

デコードインジケータライトは、次の動作モードをサポートしています。

方法	インジケーターロジック
モード 0	電源がオンになるとオフ、デコードが成功するとオン、指定された時間が経過するとオフになります。
方法 1	電源 ON で点灯、デコード成功で消灯、一定時間経過後に点灯します。スリープモード時も点灯します。
方法 2	電源 ON で点灯、デコードトリガーで消灯、デコード成功で点灯、一定時間経過後に消灯します。
方法 3	デコード表示灯は照明灯として使用されます。デコード中は点灯し、デコード完了後は消灯します。

* モード 0

方法 1

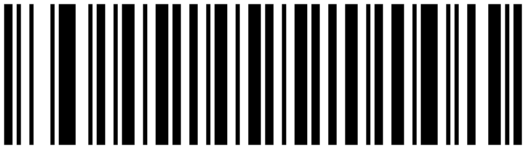
方法 2

方法 3

2.4 照明制御

* 読み取り時に点灯します

常時オン

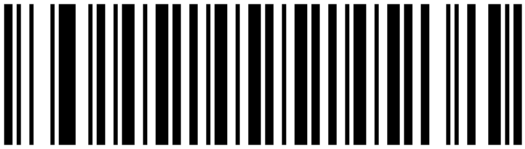


常に消灯

2.5 ポジショニングライト

2D 製品のサポート

ポジショニングライト制御



* 読み取り時に点灯します

常時オン

常に消灯

ポジショニングランプが点滅していませんか?

* フラッシュ

点滅なし

2.6 URL ブロック

* 無効にする

有効にする

2.7 請求書機能

請求書機能を有効にすると、Code 128 シンボル体系は自動的に無効になります。Code 128 を読み取る必要がある場合は、Code 128 シンボル体系を再度有効にすることができます。

VAT 請求書の自動識別と出力

* 無効にする

有効にする

請求書の種類

* 特別請求書

通常の請求書

3 トリガー設定

3.1 トリガーモード

キーホールド（レベル）

ボタンを押すと読み取りが開始され、ボタンを放すと読み取りが終了します。読み取りが成功するか、単一の読み取りタイムアウトになると、読み取りは終了します。

* キーホールド (レベル)

シングルキートリガー（パルス）

キーレベルの変化が検出されてから読み取りが開始され、約 30 ms (具体的な時間は製品によって異なります) 維持されます。再びキーレベルの変化が検出されると読み取りが終了します。この読み取りは、読み取りが成功するか、単一読み取りタイムアウトになると終了します。

シングルキートリガー（パルス）

連続モード

読取モジュールは継続的に動作します。読み取りが成功するたび、または 1 回の読み取り時間が経過するたびに読み取りは終了し、連続読み取り間隔に達すると次の読み取りが自動的にトリガーされます。

連続モード

オートセンシングモード

読取モジュールは周囲の環境の明るさを検出し、明るさが変化すると読み取りをトリガーします。読み取りが成功するか、単一の読み取りタイムアウトになると、現在の読み取りが終了し、環境の明るさの検出が再び開始されます。

オートセンシングモード

ホストモード

読み取りはホストコマンドによってトリガーでき、読み取りはホストコマンドによってアクティブに終了することもできます。この読み取りは、読み取りが成功するか、単一読み取りタイムアウトになると終了します。

ホストモード

> **注釈**
>
> キートリガー (レベルとパルス) は他のモードでも機能します。

キー押し連続モード

ボタンを押すと連続デコードに入り、もう一度ボタンを押すと連続デコードが終了します。ボタンを 2 回押すと、1 回の読み取りとは異なり、デコード処理が 1 回行われます。

キー押し連続モード

ボタン自動感知モード

ボタンを押し続けると自動検知モードに入り、ボタンを離すと読み取りが終了します。ボタンを押すとポジショニングライトが点灯し、ボタンを離すとポジショニングライトが消灯します。

ボタン自動感知モード

1 回のスキャン時間 (スキャン期間)

単一の読み取りのカスタム最大継続時間を設定します。設定コードをスキャンした後、3 桁の設定コードをスキャンして時間係数を入力します。3 桁未満の場合は、前に 0 を追加します。

既定
: 3000 ms

ユニット
: 100 ms

範囲
: 500-25500 ms

1 回のスキャン時間

例

500 ms の設定: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0、0、5 を順番にスキャンします。

10500 ms の設定: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 1、0、5 を順番にスキャンします。

選択を変更するか、間違った設定をキャンセルするには、バーコードをキャンセル をスキャンします。

1 回のスキャン時間（スキャン時間）のクイック設定

よく使用される期間を直接選択する必要がある場合は、次のクイック設定コードをスキャンできます。

無制限

3 秒間持続

5 秒間持続

10 秒間持続

15 秒間持続

20 秒持続

30 秒持続

60 秒持続

連続読み取り間隔

連続モードでは、このパラメータは 2 つの読み取りの間の待機に使用されます。最後の読み取りが成功したか失敗したかに関係なく、時間が経過すると自動的に次の読み取りに入ります。

設定コードを読み取った後、2 桁の設定コードを読み取って時間係数を入力します。2 桁未満の場合は、前に 0 を追加します。

既定
: 500 ms

ユニット
: 100 ms

範囲
: 0-9900 ms

連続読み取り間隔

> **例**
>
> 500 ms の設定: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0 と 5 を順番にスキャンします。
>
> 選択を変更するか、間違った設定をキャンセルするには、バーコードをキャンセル をスキャンします。

同一コード遅延

連続モードおよび自動検知モードで同じバーコードが繰り返し読み取られるのを防ぐため、同一コード遅延の経過後にのみ同じバーコードを再度読み取るように設定できます。

設定コードを読み取った後、2 桁の設定コードを読み取って時間係数を入力します。2 桁未満の場合は、前に 0 を追加します。

既定
500 ms

ユニット
100 ms

範囲
0-9900 ms

同一コード遅延

例

200 ms の設定: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0 と 2 を順番にスキャンします。

1500 ms の設定: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 1 と 5 を順番にスキャンします。

選択を変更するか、間違った設定をキャンセルするには、バーコードをキャンセル をスキャンします。

同一コード遅延のクイック設定

よく使用される遅延を直接選択する必要がある場合は、次のクイック設定コードをスキャンできます。0、1、3、5、7、および無限遅延、合計 6 つのギアをサポートします。

遅延なし

1 秒の遅延

3 秒の遅延

5 秒遅延

7 秒の遅延

無限遅延 (同一コード読み取りを無効にする)

続きを読む

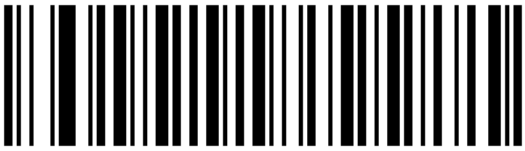
この機能は、キーホールド（レベル）、シングルキートリガー（パルス）、およびホストモードに適しています。連続読み取りモードでは、連続読み取り間隔と同じコード遅延は引き続き有効です。

* 無効にする

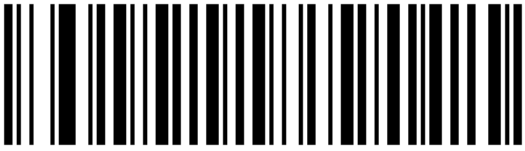
有効にする

1 回のデコードで同じコードは出力されない

有効にすると、同じバーコードはデコードラウンド内で 1 回だけ出力され、最大 20 個の異なるデコード結果がキャッシュされます。この機能は、キー押し、連続読み取りなどのモードに適しています。



* 無効にする



有効にする

パッシブトリガースキャンを無効にする

有効にすると、キートリガーとホストトリガーが無効になります。既定では無効になっています。

* 無効にする

有効にする

感度レベル

パラメータ番号

0xF2 0x04

既定

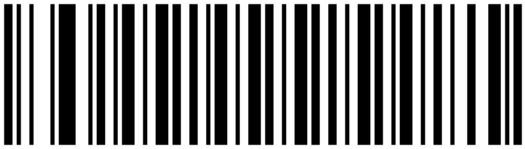
高感度

学年	パラメータ値
特殊な感度	0
高感度	1
中感度	8
感度が低い	15

特殊な感度

* 高感度

中感度



感度が低い

カスタム感度

自動誘導トリガーの感度値を設定します。値が小さいほど感度が高くなります。

既定

01

範囲

00-15

カスタム感度

例

感度を 2 に設定します。この設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0 および 2 を順番にスキャンします。

安定した検出時間

自動検知モードを設定して、検知環境に入る前に安定した時間を維持します。設定コードを読み取った後、2 桁の設定コードを読み取って時間係数を入力します。2 桁未満の場合は、前に 0 を追加します。

既定
: 500 ms

ユニット
: 100 ms

範囲
: 0-9900 ms

安定した検出時間

例

200 ms の設定: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0 と 2 を順番にスキャンします。

1500 ms の設定: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 1 と 5 を順番にスキャンします。

3.2 未読取メッセージを送信

トリガーボタンを放す前に、タイムアウト期間内にバーコードをデコードできない場合は、「未読」メッセージを送信することができます (読取モジュールは文字を送信します: NR)。使用可能なプレフィックスまたはサフィックスをメッセージに追加できます。

「読まない」を有効にする

未読取メッセージの送信を無効にする

4 インターフェース設定

4.1 通信方式

1D モジュールは現在、USB KBW および USB シリアルポートをサポートしていません。

シングル出力モード

* シリアルポート、UART、TTL、RS232

USB KBW

USB シリアルポート

ウィーガンド

RS485

PS2

TTDATA

HID POS

USB とシリアルポート出力の組み合わせ

モデル	出力の説明
AUTO_UK	自動モード UK、USB とシリアルポート出力は同時に、USB は KBW を使用します。
AUTO_UV	自動モード UV、USB とシリアルポート出力は同時に、USB は USB シリアルポートを使用します。
AUTO UK	USB とシリアルポートは同時に出力され、USB は KBW を使用します。
AUTO UV	USB とシリアルポートは同時に出力され、USB は USB シリアルポートを使用します。
AUTO UT	USB とシリアルポート出力は同時に出力され、USB は TTDATA を使用します。
AUTO HU	USB とシリアルポートは同時に出力され、USB は HID POS を使用します。

AUTO UK

AUTO UV

TTDATA+ シリアルポート

AUTO HU (HID POS+ シリアルポート)

USB と Wiegand/RS485 を組み合わせた出力

モデル	出力の説明
AUTO UW	USB と Wiegand 出力を同時に行う場合、USB は USB シリアルポートを使用します。
AUTO UR	USB と RS485 は同時に出力され、USB は USB シリアルポートを使用します。
AUTO TW	USB と Wiegand は同時に出力され、USB は TTDATA を使用します。
AUTO TR	USB と RS485 は同時に出力され、USB は TTDATA を使用します。
AUTO KW	USB と Wiegand は同時に出力され、USB は KBW を使用します。
AUTO KR	USB と RS485 は同時に出力され、USB は KBW を使用します。
AUTO HW	USB と Wiegand は同時に出力され、USB は HID POS を使用します。
AUTO HR	USB と RS485 は同時に出力され、USB は HID POS を使用します。

AUTO UW

AUTO UR

AUTO KW (KBW+ ウィーガンド)

AUTO KR (KBW+RS485)

自動ハードウェア (HID POS+Wiegand)

AUTO HR (HID POS+RS485)

4.2 シリアルパラメータ

ボーレート

ボーレートは、1 秒あたりに送信されるデータのビット数です。読取モジュールのボーレート設定は、ホストデバイスのデータレート設定と一致する必要があります。一致しない場合、データはホストからアクセスできないか、文字化けしている可能性があります。

ボーレート 1200

ボーレート 2400

ボーレート 4800

* ボーレート 9600

ボーレート 19,200

ボーレート 38,400

ボーレート 57600

ボーレート 115200

データビット

データビット: これは、通信における実際のデータビットの尺度です。

データビット 7 ビット

* データビット 8 ビット

パリティビット

パリティビットは各 ASCII コード文字の最も重要なビットであり、パリティタイプはホストの要件に従って選択されます。奇数パリティが選択されている場合、1 ビットの奇数ビットがコード文字に確実に含まれるように、パリティビットの値はデータに応じて 0 または 1 になります。

偶数パリティが選択されている場合、パリティビットの値はデータに応じて 0 または 1 になり、コード文字に偶数個の 1 ビットが含まれることが保証されます。

奇数パリティ

平

MARK パリティビットが選択され、パリティビットは常に 1 になります。

マーク

SPACE パリティが選択されており、パリティビットは常に 0 です。

空間

パリティが必要ない場合は、「なし」を選択します。

* なし

ストップビットの選択

送信される各キャラクタの終わりにあるストップビット (S) は、キャラクタの送信の終了をマークし、受信デバイスがシリアルデータストリーム内の次のキャラクタを受信できるように準備します。ホストデバイスの要件に合わせてストップビットの数 (1 または 2) を設定します。

* ストップビット

2 ストップビット

ソフトウェアハンドシェイク

このパラメータは、ハードウェアハンドシェイクを超えたデータ転送の制御を提供します。ハードウェアハンドシェイクは常に有効になっており、ユーザーが無効にすることはできません。

オプション	説明する
ACK/NAK ハンドシェイクを無効にする	読取モジュールは、ACK/NAK ハンドシェイクを生成したり要求したりしません。
ACK/NAK ハンドシェイクを有効にする	データを送信した後、読取モジュールはホストからの ACK または NAK 応答を期待します。読取モジュールは、ACK または NAK メッセージをホストに送信することもできます。

有効にすると、読取モジュールはホストのシリアル応答タイムアウトまで待機します。この時間内に ACK または NAK が受信されない場合、読取モジュールはデータを破棄して送信エラーを報告する前に、データを最大 2 回再送信します。

ACK/NAK ハンドシェイクを無効にする

* ACK/NAK を有効にする

ホストのシリアル応答タイムアウト

このパラメータでは、読取モジュールが前のメッセージを再送信するまでに、ホストからの ACK または NAK 応答を待つ時間を指定します。読取モジュールがデータを送信する必要があるものの、ホストから送信が許可されていない場合も、このタイムアウト時間だけ待機します。

既定
: 2000 ms

ユニット
: 100 ms

範囲
: 100-9900 ms

ホストのシリアル応答タイムアウト

例

3000 ms の設定: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0 と 3 を順番にスキャンします。

9900 ms の設定: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 9 と 9 を順番にスキャンします。

4.3 ウィーガンド

ウィーガンドプロトコルの種類

* 自動

WG26

WG34

WG66

カスタムウィーガンドトランスポート 1

カスタムウィーガンドトランスポート 2

WG64

Wiegand 26 プロトコル出力モード

Wiegand 26 プロトコル出力モード

* 3+5

生データ

ウィーガンド出力時間間隔の設定

2 桁の設定コードをスキャンして、設定する時間に応じた時間係数を入力します。2 桁未満の場合は、前に 0 を追加します。

既定

800 us

ユニット

100 us

範囲

100-1000 us

ウィーガンド出力時間間隔

例

100 us の設定: 係数は 01 で、数字設定コード 0、1 をスキャンします。

1000 us の設定: 係数は 10 で、数字設定コード 1、0 をスキャンします。

4.4 RS485 ネットワーク機能

* 無効にする

有効にする

485 デバイスのスレーブアドレスが変更されました

RS485 スレーブアドレスを 0001 にすばやく設定するために使用されます。

他のアドレスの場合は、^380811xxxx を押して設定コードを生成できます。xxxx は 4 ビットのスレーブアドレス値を表します。

アドレス 0001 から

RS485 ネットワークデコードデータ形式

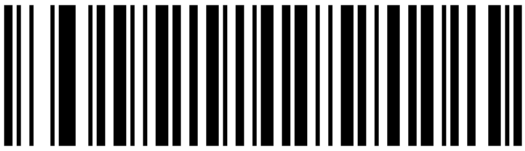
無効にすると、デコードされたデータは add + data 形式で直接送信されます。有効にすると、RS485 ネットワークデータパケット形式が使用されます。この機能が無効になっている場合、データパケットの形式は元のデータのままである必要があります。

* 無効にする

有効にする

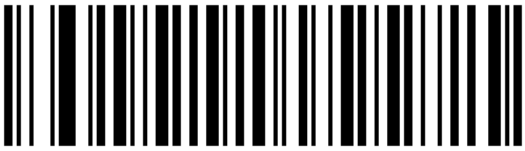
RS485 ネットワークハートビートの有効/無効

無効にする

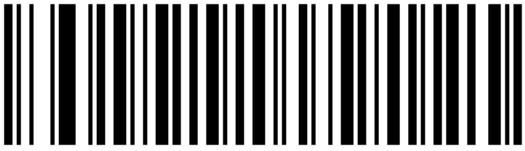


* 有効にする

RS485 ネットワークデコードデータがキャッシュに保存されます



* 無効にする



有効にする

4.5 Modbus RTU ネットワーク機能

Modbus RTU 機能の有効/無効

* 無効にする

有効にする

バーコードキャッシュの有効/無効

* 直接出力 (Modbus RTU 形式)

キャッシュ

スレーブアドレス設定

重要

工場出荷時の既定のスレーブアドレスは 0x00 です。顧客がそれを取得した後、使用する前に、別のアドレス (1-255) として構成する必要があります。

「Set Slave Address」設定コードを読み取った後、3 桁の設定コードを読み取って 10 進数のスレーブアドレスを入力します。

既定

0x00

範囲

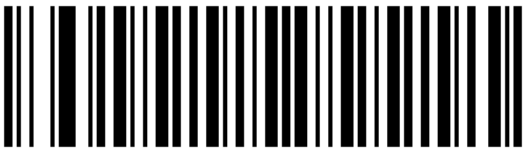
1-255

スレーブアドレスを設定する

例

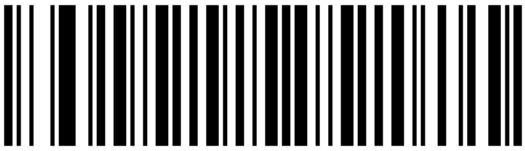
スレーブアドレスを 0x0A（10 進数の 10）に設定します。この設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0、1、0 を順番にスキャンします。

スレーブアドレスクイック設定



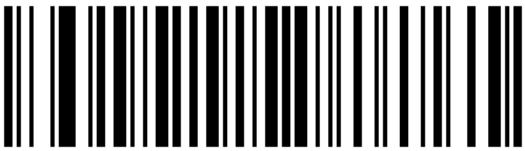
* アドレス 0x00

アドレス 0x01

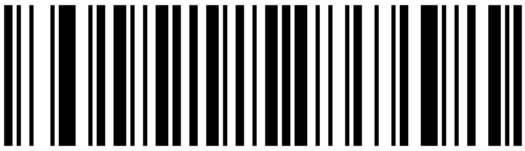


アドレス 0x02

アドレス 0x03



アドレス 0xAA



アドレス 0xBB

注釈

工場出荷時の既定のスレーブアドレスは `0x00` ですが、使用する前に `1-255` として設定する必要があります。

4.6 USB タイプ

USB タイプでは、`0` は USB 1.1 (フルスピード) を表し、`1` は USB 2.0 (高速) を表します。既定値は USB 1.1 です。

* USB1.1 (フルスピード)

USB2.0 (高速)

5 キーボード設定

5.1 キーボード

国/言語のキーボードレイアウトの選択

*US キーボード

ベルギー

ブラジル (ABNT2)

デンマーク

フィンランド

フランス

オーストリア、ドイツ

ギリシャ

ハンガリー

イタリア

オランダ

ノルウェー

ポーランド (214)

ポルトガル

ルーマニア (標準)

ロシア

スロバキア

スウェーデン

トルコ _F

トルコ _Q

イギリス

日本

タイ語キーボードケドマニー

ウクライナ

このキーボードレイアウト (Arabic_101) でサポートされている国は次のとおりです: サウジアラビア、UAE、オマーン、エジプト、バーレーン、カタール、クウェート、レバノン、リビア、シリア、イエメン、イラク、ヨルダン。

アラビア語 _101

クロアチア

韓国

ブルガリア

チェコ共和国

注釈

一部のキーボードレイアウトでは、WIN プラグインをインストールする必要があります。

注釈

「多国籍ユニバーサル」では、原則として、出力文字セットを UTF-8 に設定する必要があります。以下の設定コードは、多国籍ユニバーサル/ベトナム語キーボードレイアウト用です。

多国間 / ベトナム

キーボード出力文字時間間隔

キーボード出力文字間の時間間隔を設定します。設定コードを読み取った後、3 桁の設定コードを読み取って時間係数を入力します。

既定

`5 ms`

ユニット

`5 ms`

範囲

`0-1000 ms`

キーボード出力文字時間間隔

例

出力時間間隔を 100 ms に設定します。この設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0、2、0 を順番にスキャンします。

キーボード出力時間間隔のクイック設定

0ms

5ms

10ms

50ms

キーボード出力で大文字と小文字の変換が強制される

* 文字サイズは通常です

すべての文字を大文字に変換する

すべての文字を小文字に変換する

大文字と小文字を反転する

キーボードの種類

* QWERTY キーボード

仮想キーボード

無効にする

* 有効にする

ASCII 制御文字出力モード選択

ASCII コードでの制御文字 (0x00-0x20) 出力モードの選択

(0) 出力ファンクションキー: 制御文字はカスタムファンクションキーとして使用されます。特定の関数については、「文字検索テーブル」を参照してください。

(1) Ctrl キーの組み合わせを出力します。Ctrl キーの組み合わせモードでは、制御文字が出力されます。特定の関数については、「文字検索テーブル」を参照してください。

(2) ALT モード出力制御文字: 中国語環境では完全な制御文字出力がサポートされています。詳細については、標準の ASCII テーブルを参照してください。

(3) 出力 Enter、下矢印: 他の制御文字をマスクし、出力のみ: 0x07 出力 Enter、0x0A 出力下矢印、0x0D

出力 Enter。

(4) Ctrl キーの組み合わせを出力しますが、キーボード上の既存のキーは含まれません: Enter。

出力ファンクションキー

出力 Ctrl キーの組み合わせ

ALT モード出力制御文字

出力 Enter、下矢印

CTRL+ キーの組み合わせを出力しますが、キーボードの既存のキーは含まれません

6 データ編集

6.1 デコードデータ形式

このパラメータは、デコードされたデータを生形式 (パッケージ化されていない) で送信するか、シリアルプロトコルで定義されたパケット形式で送信するかを選択します。raw 形式が選択されている場合、ACK/NAK ハンドシェイクはデータをデコードできません。

* 生のデコードされたデータを送信する

パケットデコードされたデータを送信する

6.2 Code ID 文字を送信

パラメータ番号

0x2D

既定

None（なし）

コード ID 文字は、バーコードタイプを識別するために使用されます。デバイスが複数のバーコードタイプをデコードできる場合、プレフィックス文字とデコードされたデータの間に Code ID または AIM ID を挿入できます。Code ID 文字については、Code ID を参照。AIM ID 文字については、AIM コード識別子 を参照してください。

Code ID

AIM ID

* なし

6.3 終端文字の設定

終端文字は、出力データの後に付加される制御文字です。出力形式は、出力データ + 終端文字です。

* 無効にする

復帰と改行 CR LF

CR を入力してください

タブ

Enter Enter CR CR

キャリッジリターンとラインフィードキャリッジリターンとラインフィード CR LF CR LF

6.4 プレフィックス/サフィックス

プレフィックス/サフィックス値

出力データにはプレフィックスとサフィックスを追加できます。文字値を設定するときは、文字検索テーブル を押して ASCII 値を照会し、対応する 4 桁の設定コードをスキャンします。数字設定コードについては、数字設定コード を参照してください。

選択を変更するか、間違った入力をキャンセルするには、バーコードをキャンセル をスキャンします。シリアルポートコマンドを使用してプレフィックス/サフィックス値を設定する場合は、対応するシリアルポートコマンドの説明を参照してください。

接頭語

サフィックス 1

サフィックス 2

データフォーマットをキャンセル

> **注釈**
>
> プレフィックス/サフィックスの値を有効にするには、対応するデータ送信形式を設定する必要があります。

複数のプレフィックスとサフィックスのパターンを連続して設定する

連続セットアップモードは、複数のプレフィックスまたはサフィックスを一度に設定するために使用されます。最初にプレフィックス/サフィックス値を設定する必要があり、その後、データ送信形式を設定できます。

複数のプレフィックスを連続して設定する

既定値は 1 プレフィックス、最大は 10 プレフィックスです。対応する設定コードをスキャンして連続設定状態に入った後、文字テーブルに従って各プレフィックス文字の 4 桁の設定コードをスキャンします。10 個のプレフィックスに達すると自動的に終了します。または、「連続設定プレフィックスとプレフィックスの終了」をスキャンして事前に完了することもできます。

> **注釈**
>
> 複数のプレフィックスが有効になるには、「複数のプレフィックス + データ」または「複数のプレフィックス + データ + 複数のサフィックス」のデータ送信形式と一致する必要があります。

複数のプレフィックスを連続して設定する

高速複数プレフィックス設定: AB (ASCII 値: 0x41、0x42)

複数のサフィックスを連続して設定する

既定のサフィックスは 2 つ、最大 10 個のサフィックスです。対応する設定コードをスキャンして連続設定状態に入った後、文字テーブルに従って各サフィックス文字の 4 桁の設定コードをスキャンします。サフィックスが 10 個に達すると自動的に終了します。または、事前に「プレフィックスとサフィックスの連続設定を終了する」をスキャンして完了することもできます。

> **注釈**
>
> 複数のサフィックスが有効になるには、「データ + 複数のサフィックス」または「複数のプレフィックス + データ + 複数のサフィックス」のデータ送信形式と一致する必要があります。

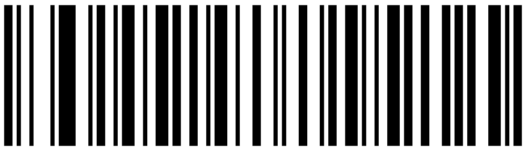
複数のサフィックスを連続して設定する

高速複数サフィックス設定: AB (ASCII 値: 0x41、0x42)

セットアップを完了または終了する

現在設定されているプレフィックスまたはサフィックスを保存し、連続設定状態を終了するには、「複数の連続するプレフィックスおよびサフィックスの設定を完了する」または「プレフィックスおよびサフィックスの設定を終了する」をスキャンします。

複数のプレフィックス/サフィックスを連続して設定完了



プレフィックス/サフィックス設定の終了

データ転送フォーマット

以下の対応するバーコードをスキャンして、希望のデータ転送形式を設定します。プレフィックス（サフィックス）を設定するたびに、プレフィックス（サフィックス）を有効にするために、対応するデータ伝送フォーマットを再度スキャンする必要があります。たとえば、元の形式は「データ + サフィックス 1」です。プレフィックスを設定した後、プレフィックス機能を有効にするには、「プレフィックス + データ」または「プレフィックス + データ + サフィックス」をスキャンする必要があります。

* 元のデータ

データ + サフィックス 1

データ + サフィックス 2

データ + サフィックス 1+ サフィックス 2

プレフィックス + データ

プレフィックス + データ + サフィックス 1

プレフィックス + データ + サフィックス 2

プレフィックス + データ + サフィックス 1 + サフィックス 2

データ + 複数のサフィックス

複数のプレフィックス + データ

複数のプレフィックス + データ + 複数のサフィックス

STX と ETX の設定

* 無効にする

STX(プレフィックス)

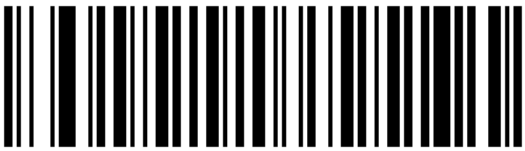
ETX (サフィックス 1)

STX(プレフィックス)+ETX(サフィックス 1)

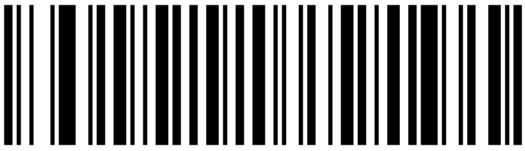
サフィックスキーの組み合わせ機能

USB KBW 通信モードに適した機能です。単一または複数のキーの組み合わせ機能を設定できます。Ctrl+Shift が必要な場合は、サフィックス Ctrl キーの組み合わせ機能とサフィックス Shift キーの組み合わせ機能が同時に有効になります。

サフィックス Alt キーの組み合わせ機能



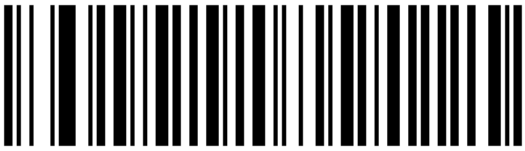
* 無効にする



有効にする

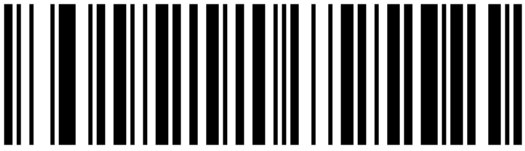
サフィックス Ctrl キーの組み合わせ機能

* 無効にする

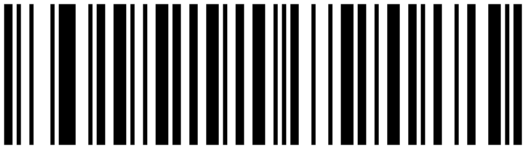


有効にする

サフィックス Shift キーの組み合わせ機能

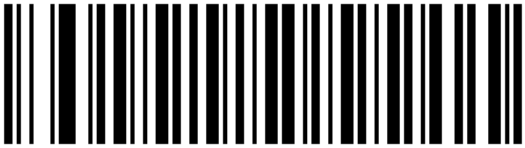


* 無効にする



有効にする

サフィックスと終端文字は、ASCII 制御文字出力モードの影響を受けません。



* 無効にする

有効にする

6.5 バーコードタイプに応じてプレフィックスとサフィックスを設定する

プレフィックスとサフィックスは、指定したバーコードタイプに応じて個別に設定またはクリアできます。設定する場合は、機能設定コードを読み取り、バーコード種類インデックスと設定する文字値を入力します。

プレフィックスを設定する

1. 「バーコードタイプに応じてプレフィックスを設定」設定コードをスキャンします。
2. バーコードタイプインデックスと文字検索テーブル に従って、対応する数字設定コードをスキャンします。QR Code タイプインデックス `0xF1` を例として、1、2、4、1 をスキャンします。

3. 設定する必要があるプレフィックス文字をスキャンします。たとえば、プレフィックスが番号 1 の場合、1049 (0x31) をスキャンします。
4. 「プレフィックスとサフィックスの設定を終了」をスキャンすると設定は完了です。

バーコードタイプに基づいてプレフィックスを設定する

サフィックスを設定する

サフィックスを設定する手順は、プレフィックスを設定する場合と同じです。最初に次の設定コードをスキャンし、次にバーコードタイプのインデックスとサフィックス文字の値を入力します。

バーコードタイプに応じてサフィックスを設定する

プレフィックス/サフィックスをクリアする

指定したバーコードタイプのプレフィックスまたはサフィックスをクリアする場合は、まず対応するクリア設定コードをスキャンしてから、バーコードタイプインデックスを入力します。QR Code を例にとると、0xF1 に対応する数字設定コードを入力した後、QR Code のプレフィックス情報をクリアできます。

注釈

すべての種類のプレフィックスをクリアする必要がある場合は、1、2、5、5 (0xFF) をスキャンします。

バーコードタイプに基づいてプレフィックスをクリアする

バーコードタイプに基づいたクリアサフィックス

プレフィックスとサフィックスの有効/無効

次のバーコードをスキャンして、希望のデータ転送形式を設定します。

* プレフィックスまたはサフィックスは追加されていません (元のデータ)

プレフィックスを追加 (プレフィックス + データ)

サフィックスの追加 (データ + サフィックス)

プレフィックスとサフィックスの追加 (プレフィックス + データ + サフィックス)

6.6 カスタムバーコードデータの非表示

ヘッダーデータを非表示にする

デコードされた出力の先頭にある指定された長さのデータを非表示にすることができます。設定した長さがバーコードのデータ長を超える場合、現在のバーコードの内容全体が非表示になります。

* 無効にする

有効にする

隠しヘッダーデータの長さを設定する

次の設定コードをスキャンした後、3 桁の設定コードをスキャンして、隠れた長さを入力します。3 桁未満の場合は、前に 0 を追加します。

範囲

1-255

> **例**
>
> ヘッダーの 16 文字を非表示にする: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0、1、および 6 を順番にスキャンします。

隠しヘッダーデータの長さを設定する

中間データを非表示にする

デコードされた出力の中央部分にある指定された長さのデータを非表示にすることができます。開始位置がバーコードのデータ長を超える場合、現在のバーコードは非表示になりません。設定した長さが残りのバーコードデータ長を超えると、開始位置以降のバーコードデータがすべて非表示になります。

* 無効にする

有効にする

非表示の中間データの開始位置を設定する

次の設定コードをスキャンした後、3 桁の設定コードをスキャンして開始位置を入力します。3 桁未満の場合は、前に 0 を追加します。

範囲

1-255

非表示の中間データの開始位置を設定する

非表示の中間データの長さを設定する

次の設定コードをスキャンした後、3 桁の設定コードをスキャンして、隠れた長さを入力します。3 桁未満の場合は、前に 0 を追加します。

範囲

1-255

例

中央の 16 文字を非表示にする: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0、1、および 6 を順番にスキャンします。

非表示の中間データの長さを設定する

末尾データを非表示にする

デコードされた出力の最後にある指定された長さのデータを非表示にすることができます。設定した長さがバーコードのデータ長を超える場合、現在のバーコードの内容全体が非表示になります。

* 無効にする

有効にする

非表示の末尾データの長さを設定します

次の設定コードをスキャンした後、3 桁の設定コードをスキャンして、隠れた長さを入力します。3 桁未満の場合は、前に 0 を追加します。

範囲

1-255

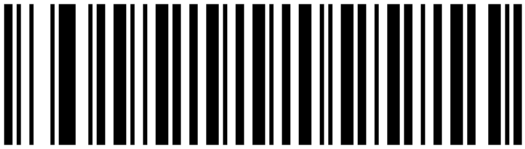
> **例**
>
> 末尾の 16 文字を非表示にする: 設定コードをスキャンした後、数字設定コード 0、1、および 6 を順番にスキャンします。

非表示の末尾データの長さを設定します

6.7 カスタムバーコードデータの保持

ヘッダーデータを保持する

デコードされた出力の先頭にある指定された長さのデータのみを保持できます。設定された長さがバーコードのデータ長を超える場合、現在のバーコードの内容全体が保持されます。



* 無効にする

有効にする

保持するヘッダーデータの長さを設定します

次の設定コードをスキャンした後、数字設定コードをスキャンして予約長を入力します。

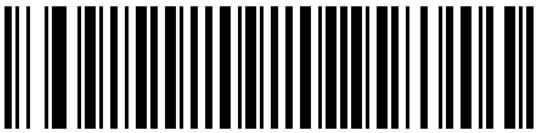
範囲

1-65535

保持するヘッダーデータの長さを設定します

保持するヘッダーデータの長さを素早く設定

1 バイトのヘッダーデータを予約



9999 バイトのヘッダーデータを予約します

65535 バイトのヘッダーデータを予約

中間データを保持する

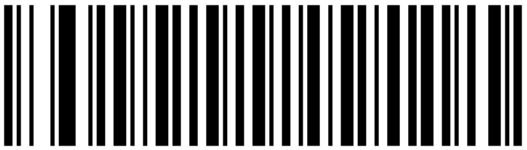
デコードされた出力の中間部分にある指定された長さのデータのみを保持できます。開始位置がバーコードデータ長を超える場合、データは保持されません（出力されません）。設定した長さが残りのバーコードデータ長を超えた場合、開始位置以降のバーコードデータはすべて保持されます。

例

バーコードデータが 12345ABC、開始位置が 5、長さが 2 の場合、AB が出力されます。

バーコードデータが 12345ABC、開始位置が 5、長さが 5 の場合、ABC が出力されます。

* 無効にする



有効にする

中間データの保持開始位置を設定する

次の設定コードをスキャンした後、数字設定コードをスキャンして開始位置を入力します。

範囲

1-65535

中間データの保持開始位置を設定する

中間データ保持の開始位置を素早く設定

バーコード生成ツールを使用して、カスタム開始位置設定コードを生成できます。

範囲

1-65535 (0x0001-0xFFFF)

形式

80829XXXX、XXXX は 4 桁の大文字の 16 進値です。

例

15 バイト以降を予約した場合、設定コード値は 80829000F になります。

最初のバイト以降のデータを保持する

9999 バイト目以降のデータを保持

65535 バイト目以降のデータを保持

保持する中間データの長さを設定する

次の設定コードをスキャンした後、数字設定コードをスキャンして予約長を入力します。

範囲

1-65535

保持する中間データの長さを設定する

保持する中間データの長さを素早く設定

カスタム予約長セットコードは、バーコード生成ツールを使用して生成できます。

範囲

1-65535 (0x0001-0xFFFF)

形式

8082AXXXX、XXXX は 4 桁の大文字の 16 進値です。

> **例**
>
> 開始位置から 15 バイトが予約されている場合、設定されるコード値は 8082A000F です。

開始位置の後に 1 バイトのデータを保持します

開始位置の後に 9999 バイトのデータを保持します

開始位置の後に 65535 バイトのデータを保持します

末尾データを保持する

デコードされた出力の最後にある指定された長さのデータのみを保持できます。設定された長さがバーコードのデータ長を超える場合、現在のバーコードの内容全体が保持されます。

例

バーコードデータは 12345ABC で、最後の 3 バイトが残っている場合は ABC が出力されます。

バーコードデータは 12345ABC で、最後の 5 バイトが残っている場合は 45ABC が出力されます。

* 無効にする

有効にする

保持する末尾データの長さを設定する

次の設定コードをスキャンした後、数字設定コードをスキャンして予約長を入力します。

範囲

1-65535

保持する末尾データの長さを設定する

保持する末尾データの長さを素早く設定

末尾のデータを 1 バイト保持する

9999 バイトの末尾データを予約

65535 バイトの末尾データを予約

6.8 バーコード内のカスタマイズされたデータ文字列を非表示にする の有効/無効

1 ～32 バイトのカスタム隠しデータの設定をサポートします。バーコード内に出現するデータ文字列はすべて非表示にして出力されます。

* 無効にする

有効にする

非表示のデータ文字列を設定する

「隠しデータ設定」を読み取った後、数字設定コードを 4 桁ずつ読み取ってください。文字値は文字検索テーブル を参照します。たとえば、キャリッジリターン 0x0D が非表示の場合、1013 がスキャンされます。キャリッジリターン 0x0D 0x0A が非表示の場合、1013 と 1010 が順番にスキャンされます。

成功・失敗に関わらず、コードをスキャンするたびに「設定完了」をスキャンして連続データ設定状態を終了する必要があります。

隠しデータを設定する

セットアップを完了する

隠しデータを設定したら、コードをスキャンして設定を保存します。データは最大 32 バイトをサポートします。32 バイトに達すると、自動的に終了し、設定が保存されます。

セットアップを完了する

読み返してクリアする

設定中に誤った設定が発生する可能性があります。現在設定されているデータはリードバック機能で確認できます。読み返しても現在の設定ラウンドは中断されず、読み返した後も次の文字の設定を続けることができます。

設定内容を読み返す

設定内容をクリアする

6.9 カスタムデータを挿入する

バーコードの任意の位置に最大 10 バイトまでのカスタムデータの挿入をサポートします。

カスタムデータの挿入を有効/無効にする

* カスタムデータの挿入を無効にする

カスタムデータの挿入を有効にする

データを挿入する場所を設定する

「データ挿入位置の設定」設定コードを読み取った後、再度 4 桁の設定コードを読み取ってください。4 桁に満たない場合は先頭に 0 を付けてください。たとえば、3 文字目の後に挿入する場合は、0、0、0、および 3 をスキャンする必要があります。

位置が 0 の場合、出力データの先頭に挿入されます。位置が出力データの長さを超える場合、既定では末尾に挿入されます。サポートされる位置の範囲は 0 ～5000 です。

データを挿入する場所を設定する

挿入データの設定

「挿入データの設定」をスキャンした後、文字検索テーブル を押して、各文字に対応する 4 桁の設定コードを連続してスキャンします。たとえば、QR を挿入し、1081 と 1082 を順番にスキャンします。最大 10 バイトをサポートし、10 バイトに達すると自動的に終了します。

挿入データの設定

カスタムデータの設定を終了する

事前に完了している場合は、次の設定コードをスキャンして終了し、現在設定されているデータを保存します。

カスタムデータの設定を終了する

6.10 データ設定の置き換え手順

置換機能は 3 つのステップに分かれています。最初に置換対象を設定し、次に置換データを設定し、最後に置換を有効にします。置換オブジェクトと置換データはどちらも最大 32 バイトをサポートします。

置換オブジェクトと置換データを設定する

置換オブジェクトを設定する

置換データを設定する

入力が 32 バイト未満の場合は、「設定の完了」をスキャンして保存する必要があります。32 バイトを超える場合は、自動的に終了して保存されます。

セットアップを完了する

置換の有効化/無効化

置換を有効にする

置換を無効にする

読み戻して置換データをクリアする

「置換されたオブジェクト」を読み返します

「置き換えられたデータ」を読み返す

「置換されたオブジェクト」をクリアします

「置き換えられたデータ」をクリアする

操作例: XY を AB に置き換えます

次の例では、文字テーブルに従って、X、Y、A、および B のスキャン値を入力します。X は 1088、Y は 1089 です。A は 1065、B は 1066 です。

1. 置換対象を XY に設定する

「置換されたオブジェクトの設定」をスキャンします。

数字設定コード 1

数字設定コード 0

数字設定コード 8

数字設定コード 8

数字設定コード 1

数字設定コード 0

数字設定コード 8

数字設定コード 9

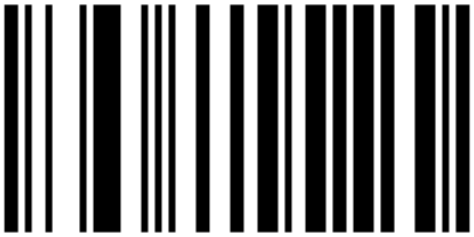
セットアップを完了する

2. 置換データを AB に設定する

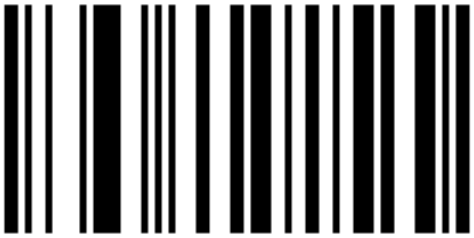
「置換データの設定」をスキャンします。

数字設定コード 1

数字設定コード 0



数字設定コード 6

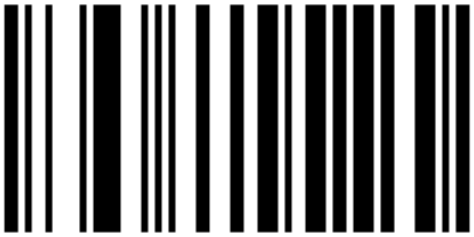


数字設定コード 5

数字設定コード 1

数字設定コード 0

数字設定コード 6



数字設定コード 6

セットアップを完了する

3. 置換を有効にして結果を確認する

置換を有効にする

置換を無効にする

サンプルのバーコードの内容は `0123XY45YX6YXY89` です。`XY` を `AB` に置き換えると、出力は `0123AB45YX6YAB89` になります。

効果例：交換前

効果例：交換後

シリアルコマンド設定

置換データを設定します: `0xF3 0x25 + 替換対象 1 + 替換対象 2 + ... + 替換対象 n`。最大 32 バイトをサポートします。文字値は文字検索テーブル を参照します。

置換後のデータを設定します: `0xF3 0x26 + 置換データ 1 + 置換データ 2 + ... + 置換データ n`。最大 32 バイトまで設定できます。文字値については、文字検索テーブルを参照してください。

操作する	命令
セットアップを完了する	0xF2 0xF6 0x00
置換を無効にする	0xF2 0xE6 0x00
置換を有効にする	0xF2 0xE6 0x01
置換オブジェクトをリードバックします	0xF2 0xE7 0x00
置換データをリードバックする	0xF2 0xE7 0x01

指示の例:

ターゲット	命令
置換オブジェクト XY を設定します	0E C6 04 08 00 F3 25 58 F3 25 59 F2 F6 00 FA 57
置換データを設定 AB	0E C6 04 08 00 F3 26 41 F3 26 42 F2 F6 00 FA 83
置換を有効にする	08 C6 04 08 00 F2 E6 01 FD 4D
1 つの命令で、XY を AB に置き換えます。	1A C6 04 08 00 F3 25 58 F3 25 59 F2 F6 00 F3 26 41 F3 26 42 F2 F6 00 F2 E6 01 F3 D5

6.11 GS1 規則（AI フィールドを括弧で囲む）

現在、GS1 ルールがサポートされており、サポートされる AI セグメントは次のとおりです: (00) 輸送コンテナのシリアル番号、(01) 商品取引品目、(02) 商品取引品目、(10) バッチ番号、(11) 製造日、(13) 包装日、(15) 賞味期限、(17) 有効期限、(21) シリアル番号、(30) 数量、(240) 内部コード、(712) 国民医療保険償還番号 - スペイン CN、(8012) ソフトウェアバージョン、(90) 取引先間の一貫した情報

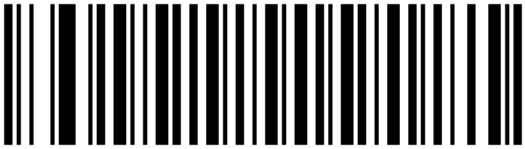
* 無効にする

有効にする

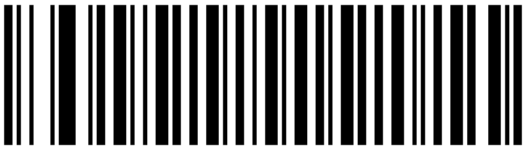
6.12 16 進数に変換する

16 進数出力に変換する

* 無効にする

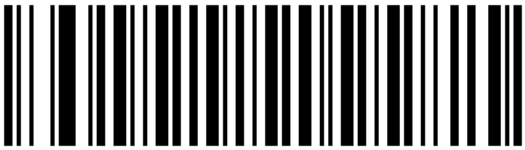


16 進数の大文字

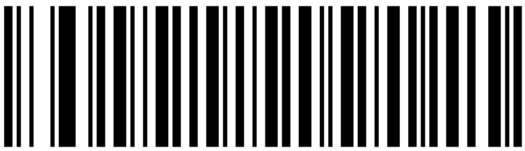


16 進数の小文字

16 進数の間隔出力に変換する



* 間隔を無効にする



空間

6.13 Code ID

バーコードタイプ	Code ID
Code 128	D
GS1-128(UCC/EAN-128)	K
AIM 128	D
ISBT-128	D
EAN-8	A
EAN-13	A
ISSN	L
ISBN/Bookland EAN	L

次のページに続く

表 1 – 前のページからの続き

バーコードタイプ	Code ID
UPC-E	A
UPC-A	A
Interleaved 2 of 5/ITF	F
ITF-14	F
Deutsche Post 14	w
Deutsche Post 12	l
NEC-25(COOP 2 of 5)	o
Matrix 2 of 5	V
Industrial 2 of 5/Discrete 2 of 5/IND25	G
Standard 2 of 5 (IATA 25)	G
Code 39	B
Code 93	E
Codabar	C
Code 11	H
Plessey	J
MSI-Plessey	J
GS1-データバー (RSS)	R
PDF417	r
QR	q
AZTEC(Aztec Code)	a
Data Matrix (DM)	u
MaxiCode	x
漢信コード/漢信コード	c
Code 32	B
Trioptic Code 39	M
Coupon Code	N
GS1 DataBar-14	R
GS1 DataBar Limited	R
GS1 DataBar Expanded	R
SETUP128	S
Veri Code	v

6.14 AIM コード識別子

バーコードタイプ	AIM ID	説明する
Code 128	]C0	通常データ
GS1-128(UCC/EAN-128)	]C1	FNC1 は最初のコードワード位置にあります。
AIM 128	]C2	FNC1 は 2 番目のコードワード位置にあります。
ISBT-128	]C0	
EAN-8	]E4	通常データ
	]E4…]E1…	EAN-8 データと 2 桁の追加コード。
	]E4…]E2…	EAN-8 データと 5 桁の追加コード。

次のページに続く

表 2 – 前のページからの続き

バーコードタイプ	AIM ID	説明する
EAN-13	]E0	通常データ
	]E3	EAN-13 データと 2/5 桁の追加コード。
ISSN	]X0	通常データ
ISBN/Bookland EAN	]X0	通常データ
UPC-E	]E0	通常データ
	]E3	UPC-E データと 2/5 桁の追加コード。
UPC-A	]E0	普通のデータ。
	]E3	UPC-A データと 2/5 桁の追加コード。
Interleaved 2 of 5/ITF	]I0	通常データ
	]I1	チェックキャラクタを検証して出力します。
	]I3	チェックキャラクタを検証しますが、出力しません。
ITF-14	]I1	チェック文字を出力します。
	]I3	チェックキャラクタは出力されません。
Deutsche Post 14	]X0	通常データ
Deutsche Post 12	]X0	通常データ
NEC-25(COOP 2 of 5)	]X0	通常データ
Matrix 2 of 5	]X0	通常データ
Industrial 2 of 5/ Discrete 2 of 5/IND25	]S0	通常データ
Standard 2 of 5 (IATA 25)	]R0	通常データ
Code 39	]A0	チェックサムなし、Full ASCII 拡張子なし、データをそのまま出力します。
	]A1	MOD43 検証、および出力検証文字。
	]A3	MOD43 検証を実行しますが、検証文字は出力されません。
	]A4	Full ASCII 拡張機能が作成されましたが、チェックサムがありません。
	]A5	Full ASCII 拡張が行われ、チェックキャラクタが出力されます。
	]A7	Full ASCII 拡張は行われますが、チェックキャラクタは出力されません。
Code 93	]G0	通常データ
Codabar	]F0	通常データ
	]F2	検証、および検証文字の出力。

次のページに続く

表 2 – 前のページからの続き

バーコードタイプ	AIM ID	説明する
	]F4	検証しますが、検証文字は出力されません。
Code 11	]H3	通常データ
	]H0	MOD11 単一文字検証および出力検証文字。
	]H3	MOD11 単一文字検証ですが、検証文字は出力されません。
Plessey	]P0	通常データ
MSI-Plessey	]M0	通常データ
	]M0	MOD10 検証、および出力検証文字
	]M1	MOD10 検証ですが、検証文字は出力されません
GS1-データバー (RSS)	]e0	標準データパッケージ
PDF417	]L0	現時点ではオプションが指定されていないため、常に 3 を送信します
QR	]Q0	QR Code モード 1 (AIM ISS 97-001 に準拠)
	]Q1	QR Code モード 2 (2005 シンボル)、ECI プロトコルは使用されません
	]Q2	QR Code モード 2 (2005 シンボル)、ECI プロトコルを使用
	]Q3	QR Code モード 2 (2005 シンボル)、ECI プロトコルは使用されず、位置 1 に FNC1
	]Q4	QR Code モード 2 (2005 シンボル)、ECI プロトコルを使用、位置 1 に FNC1
	]Q5	QR Code モード 2 (2005 シンボル)、ECI プロトコルは使用されず、位置 2 に FNC1
	]Q6	QR Code モード 2 (2005 シンボル)、ECI プロトコルを使用、位置 2 に FNC1
AZTEC(Aztec Code)	]z0	現時点ではオプションが指定されていないため、常に 3 を送信します
Data Matrix (DM)	]d0	ECC 000 - 140
	]d1	ECC 200
	]d2	ECC 200、位置 1 または 5 の FNC1
	]d3	ECC 200、位置 2 または 6 の FNC1

次のページに続く

表 2 – 前のページからの続き

バーコードタイプ	AIM ID	説明する
	]d4	ECC 200 は ECI プロトコルをサポートします
	]d5	ECC 200、位置 1 または 5 の FNC1、ECI プロトコルをサポート
	]d6	ECC 200、位置 2 または 6 の FNC1、ECI プロトコルをサポート
MaxiCode	]U1	現時点ではオプションが指定されていないため、常に 3 を送信します
漢信コード/漢信コード	]X0	現時点ではオプションが指定されていないため、常に 3 を送信します

7 キャラクター設定

7.1 出力文字セットの種類

出力文字セットタイプは、読取モジュールがデコードされたデータをどの文字セットに従って出力するかを指定するために使用されます。

設定値	文字セット
0	プリミティブ型
1	GBK (GB2312)
2	UTF-8

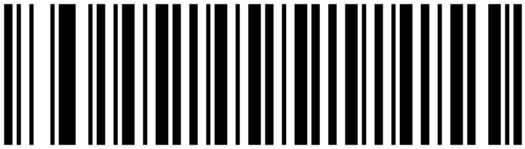
既定

0 (オリジナルタイプ)

* プリミティブ型

GBK(GB2312)

UTF8



EUC-KR 韓国語 (特別バージョン有効)

DEC MCS

BIG5

7.2 入力文字セットの種類

* 自動

GBK(GB2312)

UTF8

ASCII

日本語

韓国語（特別バージョン有効）

DEC 多国籍文字セット (MCS)

ISO8859-1 文字セット

日本語半角（特別版のみ有効）

キリル文字セット (Windows 1251)

KOI8-R 文字セット

BIG5 文字セット

ISO8859-2 文字セット

8 バーコード設定

8.1 主なシンボル体系

シンボル体系	入り口
UPC-A	UPC-A
UPC-E	UPC-E
EAN-8	EAN-8
EAN-13	EAN-13
Bookland EAN	Bookland EAN (ISBN) を有効/無効にする
Code 128	Code 128
GS1-128	GS1-128 (以前の UCC/EAN-128)
Code 39	Code 39
Code 93	Code 93
Code 11	Code 11
Interleaved 2 of 5	Interleaved 2 of 5 ／ ITF
Codabar	Codabar
MSI	MSI/MSI PLESSEY
PDF417	PDF417
QR Code	QR Code
Data Matrix	Data Matrix (DM)
MaxiCode	MaxiCode
Aztec Code	Aztec Code
Han Xin Code	Han Xin Code

8.2 1D 反転バーコード読み取り

* 無効にする

有効にする

8.3 全バーコードタイプの有効/無効

1D バーコードの有効/無効

無効にする

有効にする

QR コードの有効/無効

無効にする

有効にする

すべてのバーコードの有効/無効

すべてのバーコードを無効にする

すべてのバーコードを有効にする

8.4 リニアコードタイプの安全レベル

この読取モジュールには、リニアシンボルのデコードに関する 4 段階のセキュリティレベルがあります。セキュリティレベルを高くすると、低品質のバーコードに対するデコード許容度が低下します。バーコードの品質に適したレベルを選択してください。

線形安全性レベル 1

すべてのコードタイプは、デコードされる前に 1 回正常に読み取られる必要があります

* リニアセキュリティレベル 1

リニアセーフティレベル 2

すべてのコードタイプは、デコードされる前に 2 回正常に読み取られる必要があります。

リニアセーフティレベル 2

リニアセーフティレベル 3

すべてのコードタイプは、デコードされる前に 3 回正常に読み取られる必要があります。

リニアセーフティレベル 3

リニアセーフティレベル 4

すべてのコードタイプは、デコードされる前に 4 回正常に読み取られる必要があります

リニアセーフティレベル 4

8.5 UPC-A

UPC-A の有効化/無効化

以下の対応するバーコードをスキャンして、UPC-A を有効または無効にします。

* UPC-A を有効にする

UPC-A を無効にする

UPC-A プリアンブル

プリアンブル文字 (国コードおよびシステム文字) は、一部の UPC-A バーコードで送信できます。UPC-A プリアンブルを設定してホストに送信するには、システム文字のみを送信する、システム文字と国コード (米国の場合は「0」) を送信する、またはプリアンブルを送信しないオプションのいずれかを選択できます。

プリアンブルなし (<DATA>)

* システム文字 (<SYSTEM CHARACTER> <DATA>)

システム文字と国コード (<COUNTRY CODE> <SYSTEM CHARACTER> <DATA>)

UPC-A チェックデジットを送信する

以下の対応するバーコードをスキャンして、UPC-A チェックコードを送信するかどうかを設定します。

*UPC-A チェックデジットを送信

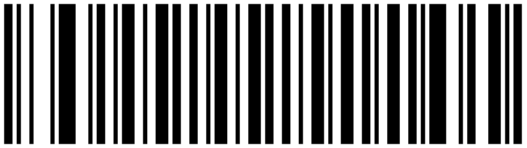
UPC-A チェックデジットを送信しない

UPC-A 2 桁の追加コード

有効にする

* 無効にする

UPC-A 5 桁の追加コード



有効にする

* 無効にする

UPC-A は追加コードを読み取る必要があります

UPC-A を有効にし、追加のコードを読み取る必要があります

UPC-A を無効にする追加のコードを読み取る必要があります

8.6 UPC-E

UPC-E の有効化/無効化

以下の対応するバーコードをスキャンして、UPC-E を有効または無効にします。

* UPC-E を有効にする

UPC-E を無効にする

UPC-E プリアンブル

プリアンブルなし (<DATA>)

* システム文字 (<SYSTEM CHARACTER> <DATA>)

システム文字と国コード (<COUNTRY CODE> <SYSTEM CHARACTER> <DATA>)

UPC-E チェックデジットを送信する

以下の対応するバーコードをスキャンして、UPC-E チェックデジットを送信するかどうかを設定します。

*UPC-E チェックデジットを送信

UPC-E チェックデジットを送信しない

UPC-E を UPC-A に変換します

このパラメータを使用すると、送信前にこのパラメータを UPC-E (ゼロ抑制) デコードされたデータから UPC-A 形式に変換できます。変換後、データは UPC-A 形式に従い、UPC-A によって保護されます。

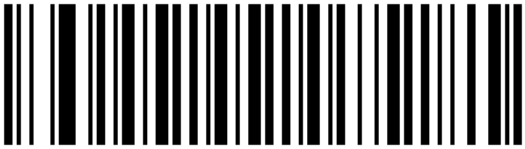
プログラミングの選択の影響 (例: プリアンブル、チェックサム)。

UPC-E から UPC-A への変換

* UPC-E を UPC-A に変換しないでください

UPC-E 2 桁の追加コード

有効にする



* 無効にする

UPC-E 5 桁の追加コード

有効にする

* 無効にする

UPC-E は追加コードを読み取る必要があります

有効にする

* 無効にする

UPC-E1 の有効/無効

* UPC-E1 を無効にする

UPC-E1 を有効にする

8.7 EAN-8

EAN-8 の有効化/無効化

以下の対応するバーコードをスキャンして、EAN-8 を有効または無効にします。

* EAN-8 を有効にする

EAN-8 を無効にする

EAN-8 ゼロ拡張

このパラメータを有効にすると、EAN-8 はデコード結果の前に 5 つのプレフィックス 0 を追加し、EAN-13 形式と互換性を持たせます。このパラメータが無効の場合、生の EAN-8 データが送信されます。

EAN-8 ゼロ拡張を有効にする

* EAN-8 ゼロ拡張を無効にする

EAN-8 2 桁の追加コード

有効にする

* 無効にする

EAN-8 5 桁の追加コード

有効にする

* 無効にする

EAN-8 は追加コードを読み取る必要があります

有効にする

* 無効にする

EAN-8 チェックデジットの送信

無効にする

* 有効にする

8.8 EAN-13

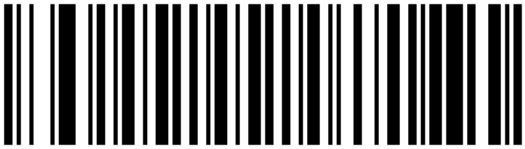
EAN-13 の有効化/無効化

以下の対応するバーコードをスキャンして、EAN-13 を有効または無効にします。

* EAN-13 を有効にする

EAN-13 を無効にする

EAN-13 2 桁の追加コード



有効にする

* 無効にする

EAN-13 5 桁の追加コード

有効にする

* 無効にする

EAN-13 は追加コードを読み取る必要があります

有効にする

* 無効にする

EAN-13 チェックキャラクタを送信

EAN-13 のチェック文字の送信を無効にする

EAN-13 を有効にしてチェック文字を送信する

8.9 Bookland EAN (ISBN) を有効/無効にする

Bookland EAN (ISBN) を有効または無効にするには、以下の対応するバーコードをスキャンします。

Bookland EAN を有効にする

* Bookland EAN を無効にする

8.10 Code 128

> **注釈**
>
> Code 128 の有効化/無効化制御は AIM128 にも適用されます。AIM128 の出力タイプ識別は、通常の Code 128 とは異なります。

Code 128 の有効化/無効化

以下の対応するバーコードをスキャンして、Code 128 を有効または無効にします。

* Code 128 を有効にする

Code 128 を無効にする

Code 128 チェックキャラクタを送信

有効にする

* 無効にする

Code 128 の長さ設定

特定の長さの Code 128 コードを読み取ることができます。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「Code 128 任意の長さ」の設定コードをスキャンする場合、任意の長さを読み取ることができ、数値の設定コードをスキャンする必要はありません。

既定

0-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

Code 128 任意の長さ

Code 128 指定された長さ

8.11 GS1-128 (以前の UCC/EAN-128)

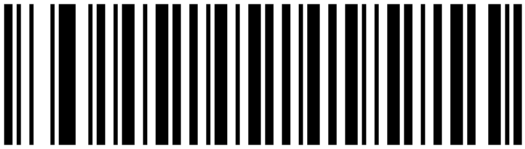
以下の該当する設定コードを読み取り、GS1-128 を有効または無効にします。

* GS1-128 を有効にする

GS1-128 を無効にする

UCC/EAN-128 チェックキャラクタを送信する

有効にする



* 無効にする

UCC/EAN-128 の長さの設定

特定の長さの UCC/EAN-128 コードを読み取ることができます。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「UCC/EAN-128 任意長」設定コードをスキャンする場合、任意の長さを読み取ることができ、数字設定コードをスキャンする必要はありません。

既定

0-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

UCC/EAN-128 任意の長さ

UCC/EAN-128 で指定された長さ

8.12 ISBT 128

以下の適切なバーコードをスキャンして、ISBT 128 を有効または無効にします。

* ISBT 128 を有効にする

ISBT 128 を無効にする

8.13 Code 39

Code 39 の有効化/無効化

以下の対応するバーコードをスキャンして、Code 39 を有効または無効にします。

* Code 39 を有効にする

Code 39 を無効にする

Code 39 長さの設定

特定の長さの Code 39 コードを読み取ることができます。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「Code 39 任意の長さ」の設定コードをスキャンする場合、任意の長さを読み取ることができ、数値の設定コードをスキャンする必要はありません。

既定

0-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

Code 39 任意の長さ

Code 39 指定された長さ

Code 39 チェックデジットの検証

この機能を有効にすると、読取モジュールはすべての Code 39 コードの整合性をチェックし、データが指定されたチェックデジットアルゴリズムに準拠しているかどうかを検証します。1 つのモジュロ 43 チェックデジットを含む Code 39 バーコードのみをデコードできます。

Code 39 チェックデジットを確認する

* Code 39 チェックデジットを検証しません

Code 39 チェックデジットの送信このバーコードをスキャンしてデータチェックデジットを送信します。

Code 39 チェックデジットを送信する

* Code 39 チェックデジットを送信しないでください

Code 39 Full ASCII の有効化/無効化

Code 39 Full ASCII は Code 39 から進化しており、二重文字から Full ASCII 文字にエンコードできます。以下の対応するバーコードをスキャンして、Code 39 Full ASCII を有効または無効にします。

文字検索テーブル の Code 39 文字の ASCII 値へのマッピングを参照してください。

Code 39 Full ASCII を有効にする

* Code 39 Full ASCII を無効にする

Code 39 送信開始文字と終了文字

* 無効にする

有効にする

Code 39 を Code 32 (イタリアの医療法) に変換する

Code 32 は、イタリアの製薬業界で使用されている Code 39 のバリアントです。以下の適切なバーコードをスキャンして、Code 39 から Code 32 への変換を有効または無効にします。

* 無効にする

有効にする

Code 32 プレフィックス

このパラメータを有効にすると、すべての Code 32 にプレフィックス文字「A」が追加されます。このパラメータを有効にする前に、まず Code 39 を Code 32 (イタリアの医薬品コード) に変換する必要があります。

* 無効にする

有効にする

Code 32 チェックコードの検証

* 無効にする

有効にする

Code 32 チェックデジットを送信する

* 送信チェックデジット 0x00

Code 32 チェックデジットの送信を有効にする

8.14 Code 93

送信開始キャラクタ、終了キャラクタ、チェックデジット

0x01

Code 93 を有効/無効にする

Code 93 を有効または無効にするには、以下の対応するバーコードをスキャンします。

Code 93 を有効にする

* Code 93 を無効にする

Code 93 の長さを設定する

特定の長さの Code 93 コードの読み取りを許可します。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「Code 93 Any Length」の設定コードを読み取る場合は、任意の長さを読み取ることができ、数値の設定コードを読み取る必要はありません。

既定

0-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

Code 93 任意の長さ

Code 93 は長さを指定します

8.15 Code 11

Code 11 を有効/無効にする

Code 11 を有効または無効にするには、以下の対応するバーコードをスキャンします。

Code 11 を有効にする

* Code 11 を無効にする

Code 11 の長さ設定

特定の長さの Code 11 コードの読み取りを許可します。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「Code 11 Any Length」の設定コードを読み取る場合は、任意の長さを読み取ることができ、数値の設定コードを読み取る必要はありません。

既定

4-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

Code 11 任意の長さ

Code 11 は長さを指定します

チェックコードの検証

この機能により、読取モジュールはすべての Code 11 エンコーディングの整合性をチェックして、データが指定されたチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認できます。これにより、デコードされた Code 11 バーコードのチェックデジットメカニズムが選択されます。オプションには、1 パリティ桁のチェック、2 パリティ桁のチェック、または機能の無効化が含まれます。

この機能を有効にするには、チェックデジットの数に対応する以下の Code 11 バーコードをスキャンします。

* チェックデジット検証を無効にする

チェックデジット

2 つのチェックデジット

Code 11 チェックデジットを送信する

以下のバーコードをスキャンし、Code 11 確認コードを送信するかどうかを選択します。

Code 11 チェックデジットを送信する

* Code 11 チェックデジットを送信しないでください

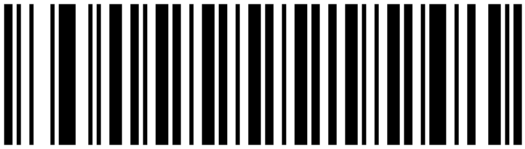
> **注釈**
>
> このパラメータ機能を実装するには、Code 11 チェックコード検証を有効にする必要があります。

8.16 Interleaved 2 of 5 ／ ITF

Interleaved 2 of 5 を有効/無効にする

Interleaved 2 of 5 を有効または無効にするには、以下の対応するバーコードをスキャンします。

* Interleaved 2 of 5 を有効にする



Interleaved 2 of 5 を無効にする

Interleaved 2 of 5 の長さ設定

特定の長さの Interleaved 2 of 5 コードの読み取りを許可します。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「Interleaved 2 of 5 任意長」設定コードを読み取る場合は、任意の長さを読み取ることができ、数字設定コードを読み取る必要はありません。

既定

4-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

任意の長さのインターリーブ 2 of 5

指定された長さの Interleaved 2 of 5

I 2/5 チェックコードの検証

このパラメータを有効にすると、I 2 of 5 シンボルの整合性がチェックされ、USS (Uniform Symbol Specific) や OPCC (Optical Product Code Council) などの指定されたアルゴリズムに準拠していることが確認されます。

* 無効にする

有効にする

I 2/5 チェックデジットを送信

このバーコードをスキャンすると、データのチェックサムが送信されます。

I 2/5 チェックデジットを送信

* I 2/5 チェックデジットは送信しません

8.17 Discrete 2 of 5 ／ Industrial 2 of 5 ／ IND25

Discrete 2 of 5 を有効/無効にする

Discrete 2 of 5 を有効または無効にするには、以下の対応するバーコードをスキャンします。

Discrete 2 of 5 を有効にする

* Discrete 2 of 5 を無効にする

Discrete 2 of 5 の長さ設定

特定の長さの Discrete 2 of 5 コードの読み取りを許可します。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「Discrete 2 of 5 任意長」設定コードを読み取る場合は、任意の長さを読み取ることができ、数字設定コードを読み取る必要はありません。

既定

4-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

任意の長さの離散 2/5

指定された長さのディスクリート 2/5

ディスクリート 2/5 の検証

有効にする

* 無効にする

Discrete 2 of 5 チェックキャラクタを送信

Discrete 2 of 5 を有効にしてチェックキャラクタを送信する

Discrete 2 of 5 を無効にするチェック文字を送信する

8.18 Matrix 2 of 5（Matrix 25）

マトリックス 25 を有効/無効にする

マトリックス 25 を有効にする

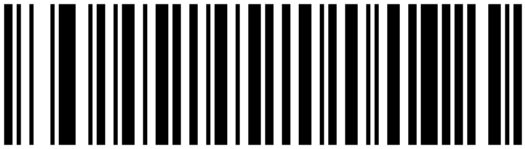
* マトリックス 25 を無効にする

マトリックス 25 チェックデジットの検証

マトリックス 25 チェックサム確認を有効にする

* マトリックス 25 チェックサム確認を無効にする

マトリックス 25 チェックキャラクタの送信



マトリックス 25 送信チェック文字を有効にする

* マトリックス 25 送信チェック文字を無効にする

マトリックス 25 の長さ設定

特定の長さのマトリックス 25 コードの読み取りを可能にします。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「Matrix 25 Any Length」の設定コードを読み取る場合は、任意の長さを読み取ることができ、数値の設定コードを読み取る必要はありません。

既定

4-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

マトリックス 25 任意の長さ

マトリックス 25 は長さを指定します

8.19 Standard 2 of 5 ／ IATA 2 of 5（Standard 25）

標準 25 を有効/無効にする

以下の対応するバーコードをスキャンして、Standard 25 を有効または無効にします。

* 無効にする

有効にする

標準の 25 チェックデジット検証

* 標準 25 チェックサム確認を無効にする

標準 25 チェックサム確認を有効にする

送信チェックキャラクタ

* 標準 25 送信チェックキャラクタを無効にする

標準 25 の送信チェックキャラクタを有効にする

標準 25 長さ設定

特定の長さの標準 25 コードの読み取りを可能にします。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「Standard 25 Any Length」設定コードを読み取る場合は、任意の長さを読み取ることができ、数字設定コードを読み取る必要はありません。

既定

4-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

標準 25 任意の長さ

標準 25 指定長さ

8.20 Codabar

Codabar を有効/無効にする

Codabar を有効または無効にするには、以下の対応するバーコードをスキャンします。

Codabar を有効にする

* Codabar を無効にする

Codabar の長さの設定

特定の長さの Codabar コードの読み取りを許可します。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「Codabar Any Length」設定コードをスキャンする場合、任意の長さを読み取ることができ、数字設定コードをスキャンする必要はありません。

既定

2-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

任意の長さの Codabar

Codabar は長さを指定します

Codabar の検証

有効にする

* 無効にする

Codabar はチェック文字を送信します

有効にする

* 無効にする

通知編集

NOTIS 編集を有効にする

* NOTIS 編集を無効にする

開始文字と終了文字の形式

開始文字と終了文字には、「A」、「B」、「C」、「D」の 4 つの文字のいずれかを使用できます。
終了文字には、「T」、「N」、「*」、「E」の 4 つの文字のいずれかを使用することもできます。

*ABCD/ABCD

ABCD/TN*E

開始文字と終了文字の大文字化の設定

* 大文字

小文字

8.21 MSI/MSI PLESSEY

MSI を有効/無効にする

MSI を有効または無効にするには、以下の対応するバーコードをスキャンします。

MSI を有効にする

* MSI を無効にする

MSI の長さの設定

特定の長さの MSI コードを読み取ることができます。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「MSI Any Length」設定コードを読み取る場合は、任意の長さを読み取ることができ、数値の設定コードを読み取る必要はありません。

既定

2-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

MSI の任意の長さ

MSI 指定の長さ

MSI チェックデジット

バーコードの末尾にあるこれらのチェックコードは、データの整合性を検証します。少なくとも 1 つのチェックサムが常に要求されます。チェックサムはデータとともに自動的には送信されません。2 つのチェックデジットを選択する場合は、MSI チェックコードアルゴリズムも設定する必要があります。

* MSI チェックデジット

2 つの MSI チェックデジット

MSI チェックコードを送信する

このバーコードをスキャンして、データとともにチェックサムを送信するように設定します。

MSI チェックコードを送信する

このバーコードをスキャンして、チェックサムなしのデータ送信を設定します。

* MSI チェックコードを送信しません

MSI チェックコードアルゴリズム

2 つの MSI チェックデジットを選択する場合、次のアルゴリズムのいずれかを選択する必要があります。

MOD 10 / MOD 11

* MOD 10 / MOD 10

8.22 GS1 DataBar/RSS

GS1 DataBar/RSS の有効化/無効化

以下の対応するバーコードをスキャンして、GS1 DataBar/RSS を有効または無効にします。

GS1 DataBar/RSS を有効にする

* GS1 DataBar/RSS を無効にする

RSS AI キャラクター

* 有効にする

無効にする

8.23 PDF417

PDF417 の有効化/無効化

以下の対応するバーコードをスキャンして、PDF417 を有効または無効にします。

PDF417 を無効にする

* PDF417 を有効にする

PDF417 正相/逆相読み取り

* 読み取り専用の正相

読み取り専用反転

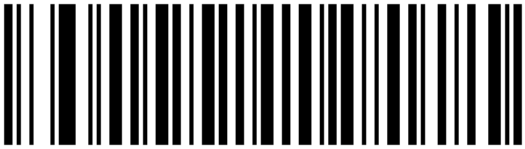
正相・逆相どちらも読み取ることができます。

8.24 QR Code

QR Code の有効化/無効化

以下の対応するバーコードをスキャンして、QR Code を有効または無効にします。

QR Code を無効にする



* QR Code を有効にする

ECI 制御

* ECI は出力しません

ECI 出力

QR 正相・逆相読み取り

* 読み取り専用の正相

読み取り専用反転

正相・逆相どちらも読み取ることができます。

QR Code の UTF-8 BOM エンコード形式を削除します

有効にすると、QR Code データを出力するときに、UTF-8 BOM エンコード形式が削除されます。

* 無効にする

有効にする

8.25 Data Matrix (DM)

正像、鏡像どちらも読み込むことができます。

Data Matrix の有効化/無効化 (DM)

以下の対応するバーコードをスキャンして、Data Matrix (DM) を有効または無効にします。

Data Matrix を無効にする

* Data Matrix を有効にする

正/負の読み取り値

* 読み取り専用の正相

読み取り専用反転

正相・逆相どちらも読み取ることができます。

ECI 制御

* ECI は出力しません

ECI 出力

8.26 MaxiCode

MaxiCode の有効化/無効化

以下の対応するバーコードをスキャンして、MaxiCode を有効または無効にします。

* MaxiCode を無効にする

MaxiCode を有効にする

8.27 Aztec Code

Aztec コードの有効化/無効化

Aztec コードを有効または無効にするには、以下の対応するバーコードをスキャンします。

* Aztec コードを無効にする

Aztec コードを有効にする

8.28 Han Xin Code

Han Xin コードを有効/無効にする

以下の対応するバーコードをスキャンして、Han Xin コードを有効または無効にします。

* Han Xin コードを無効にする

Han Xin コードを有効にする

正/負の読み取り値

* 読み取り専用の正相

読み取り専用反転

正相・逆相どちらも読み取ることができます。

8.29 ISSN

無効な場合は、EAN-13 に変換されます。

* 無効にする

有効にする

8.30 NEC-25(COOP25)

NEC-25(COOP25) の有効/無効

有効にする

* 無効にする

NEC-25(COOP25) 検証

有効にする

* 無効にする

NEC-25(COOP25) チェックキャラクタを送信

有効にする

* 無効にする

NEC-25 (COOP 25) 長さ設定

特定の長さの NEC-25 コードを読み取ることができます。長さ設定コードをスキャンした後、4 桁の設定コードをスキャンして L1 および L2 を設定します。L1 と L2 はそれぞれ 2 桁を占めます。2 桁に満たない場合は、前に 0 が追加されます。

「NEC-25 任意の長さ」の設定コードをスキャンする場合、任意の長さを読み取ることができ、数値の設定コードをスキャンする必要はありません。

既定

4-99

設定範囲

01-99

状態	意味
L1 < L2	L1 は最小長、L2 は最大長です
L1 > L2	L1 は最大長、L2 は最小長です
L1 = L2	固定長のみを読み取ります

例

4-8 文字のみの読み取りが許可されます。数字設定コード 0、4、0、8、または 0、8、0、4 をスキャンします。

12 文字の読み取りを修正しました。数字設定コード 1、2、1、2 をスキャンします。

NEC-25 任意の長さ

NEC-25 指定された長さ

8.31 COMPOSITE

複合を有効/無効にする

* 無効にする

有効にする

9 付録

付録では、数字設定コードと文字比較表を組み合わせて、単一のモデルのマニュアルで再利用および参照しやすくしています。

9.1 数字設定コード

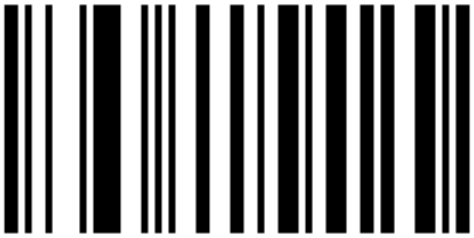
正確な数値が必要なパラメータは、適切な数字設定コードをスキャンします。

0

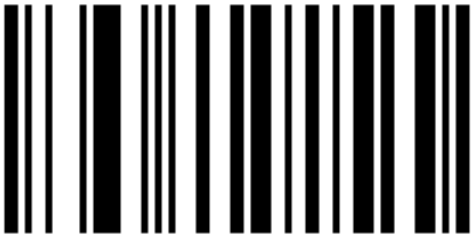
1

2

3



4



5

6

7

8

9

バーコードをキャンセル

選択を変更するか、間違った入力をキャンセルするには、下のバーコードをスキャンしてください。

設定コード：キャンセル

9.2 文字検索テーブル

デコードされたデータにプレフィックスとサフィックスを追加する場合は、次の手順に従って文字値を選択します。

1. 出力データ転送形式 (パラメータ 0xE2) を希望のオプションに設定します。
2. 表に従って設定する ASCII コード値を問い合わせ、プレフィックス (0x69)、サフィックス 1(0x68)、またはサフィックス 2(0x6A) に 16 進数で入力します。

文字比較表（制御文字）

スキャン値	16 進値	キャラクター	キーボードのファンクションキー操作	キーボード Ctrl キーの組み合わせ操作
1000	00h	NUL	Null	CTRL 2
1001	01h	SOH	Keypad Enter	CTRL A
1002	02h	STX	Caps lock	CTRL B
1003	03h	ETX	Right Arrow	CTRL C
1004	04h	EOT	Up Arrow	CTRL D
1005	05h	ENQ	Null	CTRL E
1006	06h	ACK	Null	CTRL F
1007	07h	BEL	Enter	CTRL G
1008	08h	BS	Left Arrow	CTRL H
1009	09h	HT	Horizontal Tab	CTRL I
1010	0Ah	LF	Down Arrow	CTRL J
1011	0Bh	VT	Vertical Tab	CTRL K
1012	0Ch	FF	Delete	CTRL L
1013	0Dh	CR	Enter	CTRL M
1014	0Eh	SO	Insert	CTRL N
1015	0Fh	SI	Esc	CTRL O
1016	10h	DLE	F11	CTRL P
1017	11h	DC1	Home	CTRL Q
1018	12h	DC2	Print Screen	CTRL R
1019	13h	DC3	Backspace	CTRL S
1020	14h	DC4	tab+shift	CTRL T
1021	15h	NAK	F12	CTRL U
1022	16h	SYN	F1	CTRL V
1023	17h	ETB	F2	CTRL W

スキャン値	16 進値	キャラクター	キーボードのファンクションキー操作	キーボード Ctrl キーの組み合わせ操作
1024	18h	CAN	F3	CTRL X
1025	19h	EM	F4	CTRL Y
1026	1Ah	SUB	F5	CTRL Z
1027	1Bh	ESC	F6	CTRL [
1028	1Ch	FS	F7	CTRL \
1029	1Dh	GS	F8	CTRL]
1030	1Eh	RS	F9	CTRL 6
1031	1Fh	US	F10	CTRL -
1032	20h	（空間）	Space	Space

文字比較表（可視文字）（続きの表）

スキャン値	16 進値	キーボードのファンクションキー操作
1033	21h	!
1034	22h	‘
1035	23h	#
1036	24h	$
1037	25h	%
1038	26h	&
1039	27h	‘
1040	28h	(
1041	29h	)
1042	2Ah	*
1043	2Bh	+
1044	2Ch	,
1045	2Dh	-
1046	2Eh	.
1047	2Fh	/
1048	30h	0
1049	31h	1
1050	32h	2
1051	33h	3
1052	34h	4
1053	35h	5
1054	36h	6
1055	37h	7

スキャン値	16 進値	キーボードのファンクションキー操作
1056	38h	8
1057	39h	9
1058	3Ah	:
1059	3Bh	;
1060	3Ch	<
1061	3Dh	=
1062	3Eh	>
1063	3Fh	?
1064	40h	@
1065	41h	A
1066	42h	B
1067	43h	C
1068	44h	D
1069	45h	E
1070	46h	F
1071	47h	G
1072	48h	H
1073	49h	I

次のページに続く

表 3 – 前のページからの続き

スキャン値	16 進値	キーボードのファンクションキー操作
1074	4Ah	J
1075	4Bh	K
1076	4Ch	L
1077	4Dh	M
1078	4Eh	N
1079	4Fh	O
1080	50h	P
1081	51h	Q
1082	52h	R
1083	53h	S
1084	54h	T
1085	55h	U
1086	56h	V

スキャン値	16 進値	キーボードのファンクションキー操作
1087	57h	W
1088	58h	X
1089	59h	Y
1090	5Ah	Z
1091	5Bh	[
1092	5Ch	\
1093	5Dh	]
1094	5Eh	^
1095	5Fh	_
1096	60h	‘
1097	61h	a
1098	62h	b
1099	63h	c
1100	64h	d
1101	65h	e
1102	66h	f
1103	67h	g
1104	68h	h
1105	69h	i
1106	6Ah	j
1107	6Bh	k
1108	6Ch	l
1109	6Dh	m
1110	6Eh	n
1111	6Fh	o
1112	70h	p
1113	71h	q
1114	72h	r
1115	73h	s

次のページに続く

表 4 – 前のページからの続き

スキャン値	16 進値	キーボードのファンクションキー操作
1116	74h	t
1117	75h	u

スキャン値	16 進値	キーボードのファンクションキー操作
1118	76h	v
1119	77h	w
1120	78h	x
1121	79h	y
1122	7Ah	z
1123	7Bh	{
1124	7Ch	|
1125	7Dh	}
1126	7Eh	~
1127	7Fh	Undefined

1128 から 1255 までの値も設定できます。SSI には 16 進値 80h ～FFh が使用されます。